

オオトウゾクカモメ *Great Skua* 世界最初の発見者？

9月号で紹介したオオトウゾクカモメ (*Great Skua*) については、実は興味深い逸話がある。

今でこそ「探鳥」または「バードウォッチング」は庶民レベルのレクリエーションの一つだが、日本鳥学会が発足した明治45年(1912年)の頃にはまだまだ「宮様」「お殿様」の篤志家の真剣な学究的なものだった。

「お殿様」学者、松平頼孝(ヨリナリ)子爵は日本鳥学会の評議員として活躍していたが、鳥類標本室をつくり標本の収集に情熱を燃やしていた。大正6年(1917年)相模湾で採集活動中、それまでのトウゾクカモメと明らかに異なる採餌行動をとるオオトウゾクカモメと思われる鳥を7羽捕らえ、「新種発見」を確信した。

*Catharacta matsudairae* と「松平」の名を学名に冠して新種記載された。こうして学究の徒、松平頼孝子爵の名はオオトウゾクカモメに残された。正に面目躍如たるものがあった。ところがこの鳥はすでに外国で発見され *Catharacta skua* と記載されていることが後で判り、“*matsudairae*”のついた学名は使えなくなってしまったのは残念だ。松平頼孝子爵はその後の新発見でクロウミツバメに英名“*Matsudaira's Storm Petrel*”、学名 *Oceanodroma matsudairae* と見事にその名を残して現に世界に通用している。

学名に自分の名を冠して命名した世界の鳥類学者のうち日本人は非常に少なく、松平頼孝子爵のクロウミツバメのほかにはイジマムシクイの飯島魁(イサオ)氏、ノグチゲラの野口氏くらいしか浮かんでこない(野口氏については鳥類学者としての詳細不明)。

イジマムシクイ *Phylloscopus ijimae*

ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii*

バードウッチャーまたはバーダーとして楽しむばかりでなく、*Ornithologist* (鳥類学者)としてその名を鳥名に残すという夢は、21世紀を目前にした現在ではもう叶わぬ夢だろうか？

出典：国松俊英著「鳥を描き続けた男」鳥類画家小林重三 晶文社

大宮のハクトウワシ

『しらこぼと』No. 174、1998年10月号より